

企業人権教育オンライン研修会 お互いを思いやる感染対策

～COVID-19感染対策の中で人権を考える～



新型コロナウイルス感染症についての正しい知識を持ち、必要な感染対策を実施することで、感染拡大の予防とともに、感染者に対する誹謗・中傷等の人権侵害を防止することにつながります。

感染症への不安や恐れは、だれもが抱く自然な思いです。ただ、だからといって感染（者）を責めたり、排除しても感染症が収束するわけではありません。人と人との大事なつながりを弱めるだけです。

誤った情報に振り回されず、手洗いやうがい、マスクの着用、飛沫の防止をはじめ、正しい知識に基づいた確かな対応がいかに大切かということです。人権を守る第一歩は、そうした人間の賢い行動をとることに他ならないのです。

これからは、人と人が交流を続けながら、感染を予防して元気で過ごせる方法を考える必要があります。「今、できること」を行動にうつしましょう。（講演内容要旨）

今回は、オンライン研修という形をとり、市役所3階305会議室をメイン会場に各参加企業とを結んで実施しました。「お互いを思いやる感染対策」と題して、三井洋子さん（株）Dream Seed）の講演と講演内容を受けてのグループ討議で進めました。

東中学校2年 茂木愛恵さん

思い込み
その考えが
差別呼ぶ

参加者の声

- ・新しい内容の研修でした。感染を回避する方法についての知識を、みんなが正しく持つことの必要性和情報提供の大切さが今後の課題と感じます。
- ・こうした時代だけに、相手を思いやる気持ちが重要だとあらためて思います。
- ・誹謗中傷はコロナ感染に限らず、職場の中に起きうる課題です。支えあえる仲間づくりや日常的なコミュニケーションの大切さを感じました。



- ・インフルエンザ等と違って、発症の2日前から感染力が増すということで難しさを感じますが、一人ひとりがやるべきことを共通理解することが大切なんだと思いました。
- ・警戒レベルがアップした時に対応できる準備、練習を身につけたいです。
- ・安心感が免疫力を向上させるというお話が印象的でした。

ともだちと
なかよくしたい
うれしいな

須坂支援学校中学部1年 中別優里菜さん

人権交流センターでの相談、 施設の利用について

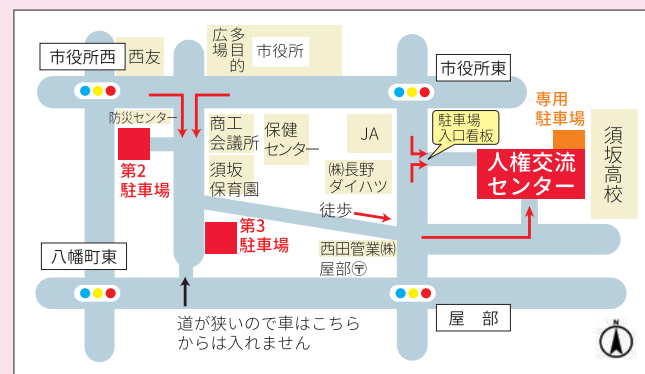
<問い合わせ・相談> 9:00 ～ 17:00

<土・日・祝日は休館、貸館の利用は可>

電話 (026)245-0909

- 相談コーナー、大小研修室、料理実習室
- 図書閲覧、DVD・人権パネル・図書類等の貸出可

※エレベーターはありません



保存版

人権教育啓発資料

人間を大切にする 明るい社会をめざして

ともに生き
ともに学ぶよ
あなたとわたし

高梨町 瀧澤延行さん



そのいじめ
あなたの心が
目げき者

森上小学校6年 夏目響介さん

常盤中学校3年 山岸 葵さん

令和2年度 小・中学生、一般応募作品最優秀賞の標語・ポスターです

伝染病やパンデミック（感染爆発）は、偏見や差別を誘発しがちです。かつては、ペストやインフルエンザ、ハンセン病問題やHIV・エイズ問題がそうであり、現在では、新型コロナウイルス感染症が該当します。誤った言動が、大切な人と人のつながりを弱め、社会の分断をすすめることにつながってしまいます。

市民の皆様におかれましては、正しい理解や認識に基づいた行動により、感染を防ぎ、感染を巡っての人権侵害の防止に、引き続き、ともに取り組んでいただきますようお願いいたします。

須坂市・須坂市教育委員会
須坂市人権のまちづくり推進会議
須坂市企業人権教育推進会議



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行後、先の見えない不安や恐怖から、感染者や医療従事者、エッセンシャルワーカー（日常生活に欠かせない仕事に従事している人々）に対する偏見や誹謗・中傷などの人権侵害の状況があります。

① 感染者、感染経路に関する誤情報やデマ

SNSなどで特定の地域や施設をあげて、「〇〇飲食店で感染者が出た」「感染者が立ち寄ったお店のリストに〇〇店が載せてある」等の誤情報やデマが拡散したために関係者や家族が多大な被害を受けました。

② 医療関係者の子どもや家族への偏見

医者や看護師等の子どもが保育園への通園を断られたり、心ない言葉をかけられたりするケースが生じました。

③ 感染した方への誹謗・中傷

新型コロナウイルスに感染した人に、「そんな行動をするから感染する」「病原菌」等の嫌がらせの電話やインターネット上に個人情報をさらすという行為が起きています。

④ 外国人や中国人へのヘイト（憎悪）

「外国人は日本に来るな」「中国が悪い」等、外国人や中国人にすべて責任を押しつけて責めたてるということがありました。

⑤ 自粛警察という行動

外出している人や営業している店を、「なんでやっているんだ」「こんな状況で不謹慎だ」と偏った正義感や嫉妬心、不安感などから私的に取り締まりや攻撃をすることがありました。



井上小学校6年 塩崎萌子さん

話す聴く
思いつながる
第一歩

豊洲小学校6年 根岸伶風さん

コロナ禍で試される人間性、地域の力

～コロナ風評被害に遭遇した家族の方の体験談を通しての学びから～

4月、妻が勤務するA社で従業員が新型コロナに感染した。A社が実名入りで公表することになり、妻もA社従業員であることは多くの人の知るところになる。周囲の人たちの不安を取り除く必要性を感じた妻は、翌日保健所に相談に行く。保健所からは、「あなたは、濃厚接触者ではなく、全く心配ないので、普通に生活してください」とのことであった。

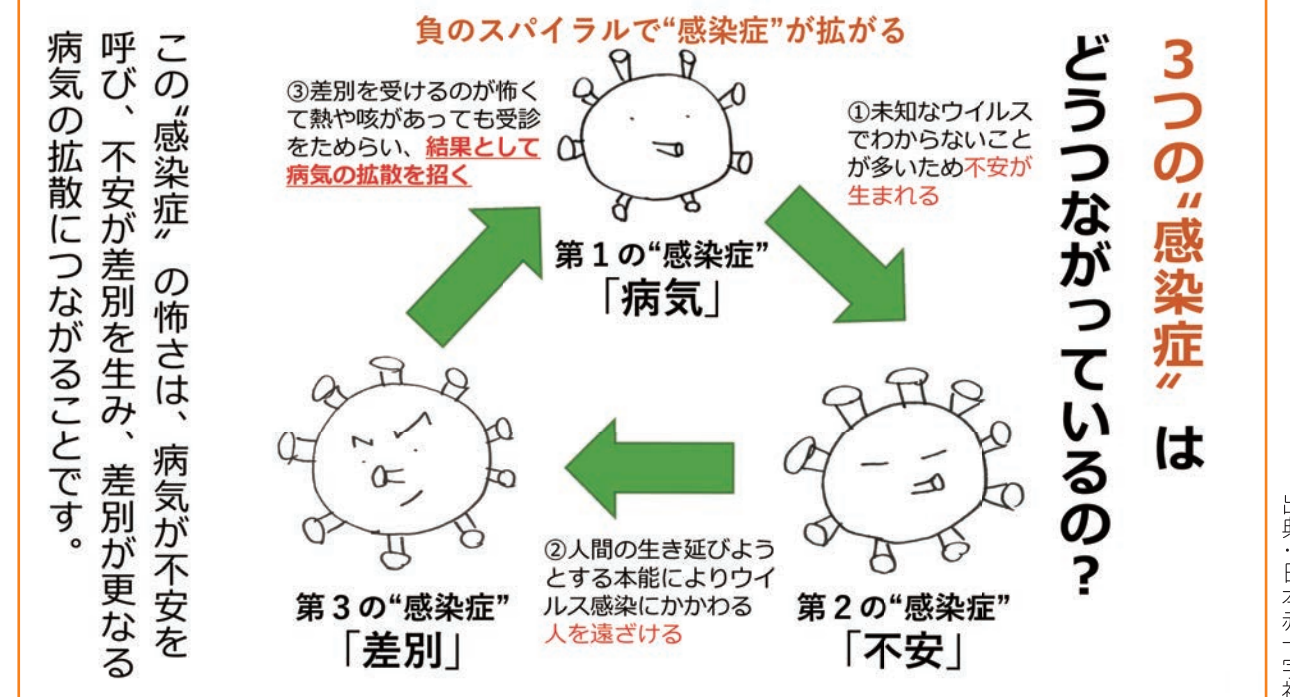
しかし、妻には「家から出ないで。きちんと検査して」と責めるような電話があったり、「奥さんは濃厚接触者なんだね」、中には「旦那さんは感染して入院しているらしい」などと飛躍した話をする人がいたといいます。いわゆる外出自粛の2週間は息が詰まる日々であった。

その一方、「絶対に大丈夫」と励ます人、「負けないでね」と消毒液や手袋、体温計などを届けてくれた人もいた。その心配りに、妻は「とても勇気づけられ、今度は私が励ます側になりたい」と感謝していた。この小さな励ましは当事者にとって大きな力、希望になった。

コロナに苦しみ、世間の冷たい視線に苦しみ、他所へ引っ越された家族もいたという。いつ、どこで、だれが感染源になるかわからない。責めたりせず、お互いさまの精神でいたわり合うことが大切だと思う。「感染した人、濃厚接触した人、私たちのように風評被害にあった人」を守るのは、地域や地域の人たちをおいて他にない。

（須坂新聞 令和2年8月1日 記者体験記より一部）

新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！



出典：日本赤十字社

➡これらの行動は、最終的には感染がますます広がってしまう負の連鎖を招きます。人間社会の弱い部分に訪れます。私たちに必要なのは、一歩立ち止まって、偏見や差別の心を捨て、周りの人とのつながりを大切にしたい取り組みをしていくことではないでしょうか。

いま私たちにできることは

① まずは感染症を防ぐため

「手洗い」「マスクの着用」「3密を避ける」など、ウイルスを直接予防する行動に、取り組みましょう。自分のため、みんなのためにです。

② 不安にふりまわされない

デマや誤情報に踊らされない。まずは落ち着いて、テレビやネットの情報を様々な角度から考えてみましょう。情報の発信元はどこか。信頼できる情報なのか。根拠の有無は…。学習会等に積極的に参加し、正しい情報を知ることが、新型コロナウイルスへの不安や恐れを解消する近道です。

③ いつもの生活習慣やペースを保つ 信頼できる人とつながる

誰とも会わないというのはかえって健康によくありません。ソーシャルディスタンスに気をつけながら、外出や友達と話すなど、今できる範囲で交流しましょう。安心感は免疫力を向上させます。

④ 最前線で働いている人に敬意をはらう

医療従事者、交通事業者、宅配便やゴミ収集など、日常生活を支えてくれる人たちにねぎらいや感謝の気持ちを持ちましょう。

大丈夫
私はこの手を
はなさない

墨坂中学校3年 横田愛花さん